

宜 基 渉 第 30 号
平成 27 年 3 月 18 日

第三海兵遠征軍司令官
沖繩地域調整官 ジョン E. ウィスラー 中将殿

宜野湾市長 佐喜眞 淳

MV-22 オスプレイからの部品落下について（抗議）

普天間飛行場は戦後 69 年もの長期間にわたって、本市のど真ん中に存在し続け、航空機事故の危険性や騒音被害等、市民の生活環境に大きな負担を与え、2004 年 8 月には、隣接する沖縄国際大学に米軍ヘリが墜落するなど、市民の基地負担はもはや限界に達しており、普天間飛行場の危険性の除去は喫緊の課題となっている。

その様な中、3 月 12 日に MV-22 オスプレイがアルミ製の部品（約 20.3cm×約 7.6cm、重さ約 164.4g）を落下させたと沖縄防衛局より連絡を受けた。米軍機からの部品落下・紛失については、今年度だけですでに 4 件も発生しており、事故のたびに、事故原因の究明と再発防止策の徹底を求めてきたが、「点検手順及び隊員教育の徹底を図り、再発防止に努める」旨の回答のみで、具体的な再発防止策が示されないまま、事故が繰り返されたことは大変遺憾であり、安全管理のあり方に疑念を持たざるを得ない。

市街地に囲まれた普天間飛行場では、航空機によるトラブルや事故は、直接人命に関する事故に繋がりがねず、市民の生命・財産を守る立場から決して看過できるものではなく、強く抗議するとともに、事故原因の究明と具体的な再発防止策を図り、その内容を公表するよう求める。